

消防危第 21 号
平成 5 年 3 月 24 日

各都道府県消防主管部長 殿

消防庁危険物規制課長

確認試験の結果に基づく危険物の判定について(通知)

確認試験の結果に基づく危険物の判定については、「確認試験の結果に基づく危険物の判定について(通知)」(平成 4 年 3 月 31 日付け消防危第 28 号各都道府県消防主管部長あて消防庁危険物規制課長通知。以下「28 号通知」という。)において御指導願っているところである。

今般、確認試験結果の報告様式を別添 1 のように改めることとした。ついては、今後、確認試験に基づき危険物の判定を行う場合の提出書類については、これを参考に指導されるようお願いする。このことに伴い、28 号通知は廃止する。

また、平成元年 11 月に消防庁において構築し、運用を行っている危険物データベースに事業者が危険物等の登録を申請するための「確認試験結果報告書(データベース登録用)」の様式についても別添 2 のとおり変更したので、あわせて送付する。

貴職におかれては、その運用に遺漏のないよう配慮されるとともに、管下市町村に対してもこの旨示達され、よろしく御指導願いたい。

別添1

確認試験結果報告書

住所

会社名

氏名

印

(第一類)

物品名			
製造会社 又は 輸入会社	住所 名称	Tel FAX	
組成	全成分（化学名）及びそれぞれの含有率（重量%）		
状態 (○印)	粉粒状以外 (粉状・粒状)	粉粒状 目開き 2 mm網ふるい通過 目開き1.18mm網ふるい通過	% %
試験結果 (○印)	燃 焼 試 験	ランク	1・2・3
	落球式打撃感度試験	ランク	1・2・3
	大量燃焼試験	危険性	有・無
	鉄管試験	危険性	有・無
試験データは 別 添			
総合判定 (○印)	I 第一種酸化性固体 II 第二種酸化性固体 III 第三種酸化性固体 IV 非危険物		
品 名	第一類 _____		
そ の 他	用途： 連絡担当者	Tel FAX	
備 考			

注) 必要事項を記入し、該当する項目を○で囲むこと。

(A4)

試験名	燃焼試験			
試験実施日	年 月 日			
試験場所				
試験実施者				
試験条件	温度 (°C) 湿度 (%) 風速 (m/s)			
木粉の種類 粒度 その他調整条件				
無機質断熱板	種類 厚さ (mm) 熱伝導率 (cal/m・hr・°C)			
標準物質の試験	物質名	臭素酸カリウム	過塩素酸カリウム	
	純度・等級	()・()	()・()	
	粒度			
	製造会社			
	混合比 その他 調整条件	重量比1:1 (合計30g)	重量比1:1 (合計30g)	
	燃焼時間	1回目	秒	秒
		2回目	秒	秒
3回目		秒	秒	
4回目		秒	秒	
5回目		秒	秒	
平均値		秒	秒	
試験物品の試験	試験物品名			
	混合比 その他 調整条件	重量比1:1 (合計30g)	重量比4:1 (合計30g)	
	燃焼時間	1回目	秒	秒
		2回目	秒	秒
		3回目	秒	秒
		4回目	秒	秒
		5回目	秒	秒
平均値		秒	秒	
最小値	秒			
判定 (○印)	※ ランク (1 ・ 2 ・ 3)			

注1) 標準物質及び試験物品について5回を超える測定結果は別紙

注2) ※臭素酸カリウムの燃焼時間以下の場合 …… (ランク1)
臭素酸カリウムの燃焼時間を超え、過塩素酸カリウムの燃焼時間以下
の場合 …… (ランク2)
過塩素酸カリウムの燃焼時間を超えるか、または不燃である場合
…… (ランク3)

試 験 名	落球式打撃感度試験		
試験実施日	年 月 日		
試験場所			
試験実施者			
試験条件	温度 () ℃ 湿度 () %		
赤 り ん	純度 () 等級 () 粒度 () 製造会社 ()		
標準物質の試験	物質名	塩素酸カリウム	硝酸カリウム
	純度・等級	() ・ ()	() ・ ()
	粒 度		
	そ の 他 件		
	製造会社		
	落球の重量	g	g
	50%爆点	cm	cm
	標準偏差		
試験物品の試験	試験物品名		
	比較物質	塩素酸カリウム	硝酸カリウム
	落球の重量	g	g
	落 高	cm	cm
	10回試験	/	/
	30回試験	/	/
	合 計	/	/
判 定 (○印)	※ ランク (1 ・ 2 ・ 3)		

注1) 40回を超える測定結果及びデータ集計表は別紙

注2) ※塩素酸カリウムとの比較試験において「爆」が1/2以上の場合

…………… (ランク1)

塩素酸カリウムとの比較試験において「爆」が1/2未満、かつ、硝酸カリウムとの比較試験において「爆」が1/2以上の場合

…………… (ランク2)

硝酸カリウムとの比較試験において「爆」が1/2未満の場合

…………… (ランク3)

〔データ集計表〕

1 塩素酸カリウムを標準物質とする試験

(1) 50%爆点の算出

落 高		〔爆 不爆〕の回数 (n)	i	i × n	i ² × n
H (cm)	常用対数(logH)				
—	—	N _s =	—	A =	B =

H₅₀ (50%爆点) =

S (標準偏差) =

(2) 試験物品の測定結果

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	合 計	備 考
落球重量 g											/10	
											(/30)	
											/40	

注1) 試験物品の測定結果の記入(爆:○ 不爆:×)

注2) 試験物品の測定結果の記入において、40回を超える測定結果は別紙

2 硝酸カリウムを標準物質とする試験

(1) 50%爆点の算出

落 高		〔爆 不爆〕の回数 (n)	i	i × n	i ² × n
H (cm)	常用対数(logH)				
—	—	N _s =	—	A =	B =

H₅₀ (50%爆点) =

S (標準偏差) =

(2) 試験物品の測定結果

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	合 計	備 考
落球重量 g											/10	
											(/30)	
											/40	

注) 1(2)の注1及び2に同じ。

試 験 名		大量燃焼試験		
試 験 実 施 日		年 月 日		
試 験 場 所		(屋 内 ・ 屋 外)		
試 験 実 施 者				
試 験 条 件		温度 (℃) 湿度 (%) 風速 (m / s)		
木 粉 の 種 類 粒 度 そ の 他 調 整 条 件				
無 機 質 断 熱 板		種 類 厚 さ (mm) 熱 伝 導 率 (cal / m · hr · ℃)		
標 準 物 質 の 試 験	物 質 名	過塩素酸カリウム		
	純 度 ・ 等 級	() ・ ()		
	粒 度			
	製 造 会 社			
	混 合 比 の 他 調 整 条 件	重量比 2 : 3 (合計 500 g)		
	燃 焼 時 間	1 回 目	秒	
	2 回 目	秒		
	3 回 目	秒		
	4 回 目	秒		
	5 回 目	秒		
	平 均 値	秒		
試 験 物 品 の 試 験	試 験 物 品 名			
	混 合 比	体 積 比 1 : 1 (合計 500 g)		
	燃 焼 時 間	1 回 目	秒	
		2 回 目	秒	
		3 回 目	秒	
		4 回 目	秒	
5 回 目		秒		
	平 均 値	秒		
判 定 (○印)	※ 危 険 性 (有 ・ 無)			

注 1) 標 準 物 質 及 び 試 験 物 品 に つ い て 5 回 を 超 え る 測 定 結 果 は 別 紙

注 2) ※ 過 塩 素 酸 カ リ ウ ム の 燃 焼 時 間 以 下 の 場 合 …… (危 険 性 有)

過 塩 素 酸 カ リ ウ ム の 燃 焼 時 間 を 超 え る か , ま た は 不 燃 で あ る 場 合

…… (危 険 性 無)

試 験 名	鉄管試験
試験実施日	年 月 日
試験場所	
試験実施者	
試験条件	温度 (℃) 湿度 (%)
可燃性物質	セルロース粉 粒度 ()
試験物品名	
調整条件	
混 合 比	重 量 比 3 : 1
使用鉄管等	
伝 爆 薬	
電 気 雷 管	
爆発の程度 (○印)	1回目 (完爆 ・ 不爆) 2回目 (完爆 ・ 不爆) 3回目 (完爆 ・ 不爆)
判 定 (○印)	※ 危険性 (有 ・ 無)

注1) 3回を超える測定結果は別紙

注2) ※3回の試験のうち1回以上鉄管が完全に破裂した場合

…… (危険性有)

3回の試験においていずれも鉄管が完全に破裂しなかった場合

…… (危険性無)

| その2 ^ |
| その3 ^ |
| その4 ^ |
| その5 ^ |
| その6 ^ |
| その7 ^ |